

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292800016		
法人名	特定非営利活動法人 EVERGREENCLUB		
事業所名	グループホーム エバーグリーンクラブ		
所在地	千葉県鴨川市太海2175番地1		
自己評価作成日	平成29年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ウエルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6F604		
訪問調査日	平成29年3月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1. 37.5度ルールの設定や、入居者一人ひとりの体調を簡潔に観察するブリーフモニタリング、さらに排泄記録を正確に記録する事により、体調の変化を見落とさないようにし、病状の重症化を予防する取り組みをしている。</p> <p>2. 施設内の研修を月1回行い、毎回のテーマを変え(食事介助法、誤嚥予防法、感染症予防、接遇等)職員の介護力向上に役立っている。</p> <p>3. 風光明媚な太海海岸がすぐ近くにあり、太陽の下を歩く散歩に取り組んでいる。</p> <p>4. 良い食事作りの為の会議を月1回行なっている。理事長を筆頭に管理者、調理担当者で行う。内容は栄養のバランスを第一に献立、食材、味付けを検討し、入居者の好みも取り入れている。食事は手作りを基本に、経だしにこだわり、加工品(調理済み惣菜)は利用しないことをモットーとしている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>施設は白いペンション風の2階建て。窓際に鉢植えの花を飾りお洒落である。近くに太海海岸があり、利用者の散歩コースになっている。地域の人達の交流は多く、ボランティアで踊りや琴を弾いて利用者を楽しませてくれる。施設の行事に家族や地域の方々が参加してくれる。運営推進会議は2か月に1回行われ、市、前区長、家族などの参加で行われ、現状報告、防犯対策、毎日の日課など検討している。介護の質を高める為にも、職員の研修に力を入れようと考えている。医療に力を入れ、37.5度ルールを作り、職員、医師、看護師などと連携し、利用者を守る取り組みを行っている。食事は手作りで、こだわりの食事が提供される。季節の食材を使用し、経だしを取り、日本古来の味付けを行い、朝・昼・夕、3食の献立を作り、利用者におもてなしの料理が提供される。エバーグリーン通信(行事特集)を作り、利用者の様子が掲載されている。地域との関わりを強くし、地域に根付いた施設を目指している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と良心に基づく高い志をもって、地域社会に貢献する」という理念を事業所内に大きく掲げ、入居案内にも掲載している。朝礼時に職員への浸透を図り、日々の業務の中で心のあり方を指摘している。	理念「愛と良心に基づく高い志を抱いて地域社会に貢献する」朝礼を行い、職員は理念を理解し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えるサービスである事を共有し、実践につなげてくれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方には、通勤時や散歩時等の外出時にお会いした時には必ず挨拶をし、積極的に交流を図っている。	近隣に住む人たちとのふれあう機会が多い。散歩や外出、職員の出勤時など挨拶をする。地域の人をクリスマス会に招待する。ボランティアが踊りやマンドリン演奏、琴などを弾いてくれる。常に交流が行われ、気軽に訪問してくれる。行事や季節の催しだけの関わりでなく、普段の暮らしの中でふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時に、入居決定に至らなくても在宅生活において認知症の方を介護している家族の苦労や抱えている問題のお話に傾聴している。そして関わり方や支援の仕方について、アドバイスさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度必ず会議を実施している。委員構成は行政、家族代表、地域住民、前区長からなる。会議では、利用者本位の介護の本質についてや今の課題になっていることなどが話されている。そこで出た、意見や要望を取り入れ、業務の見直しを図ったり事業運営およびサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1度行っている。参加者は介護保険課、前区長、家族、地域住民などで行われ、現状報告、現在の課題など、意見交換が行われている。率直な意見を頂き、サービス向上に活かしている。介護の質を高める為に、研修を増やし研鑽に努めていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設の現状を見て意見をいただいている。事故報告などを通して業務改善などについて、市に積極的に相談し助言や指示をいただいたり、また市町村担当者から、研修会開催の案内をしていただく等の協力を得られる関係を築いている。	介護保険課の担当者が運営推進会議に参加し、アドバイスを頂いている。事故報告の為に市に出かける事がある。市とは、認知症ケアの実際を見て頂き、様々な機会を通して問題解決に向け、連携を図りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険回避、安全確保の為に実施しようとする行為が身体拘束にあてはまらないか、職員間で話し合いながら身体拘束はしないケアに取り組んでいる。但し、施設前に道路があることや線路も近くにある為、事故になる可能性も高い。利用者の安全、また外部からの犯罪者の侵入を防ぐ意味もあり、玄関の施錠は行っている。その分、閉じこもりにならないように天候を見ながらの散歩や外出行事の取り組みを行なっている。	不審者防止の為や、施設前は道路や近くに線路がある。安全の為に施錠をしている。中は自由に出入りが出来る。お天気の良い日は声掛けや見守りをしながら、散歩に出かける。職員は全体ミーティングを行い、拘束や言葉の暴力などを話し合う機会を設け、利用者が自由で安全な暮らしが出来るように心掛け、支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	朝礼やQC報告書において虐待を発見し、全体ミーティング時において、虐待に関連することをテーマに揚げて話し合う機会を設けて虐待防止に努めている。言葉の暴力については特に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会参加を心掛け、権利擁護を必要とされる利用者に対しては、いつでも支援できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には必ず2名の職員で立ち会い、口頭と文書にて説明を行っている。説明の途中で、質問等がないか随時確認をしながら、利用者や家族に理解・納得をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃、面会に見えた時に家族からの要望を聴き、また日頃の様子を伝えるようにしている。家族と信頼関係をむすび、何でも言いやすい関係作りを心掛けている。家族からの意見や要望を伺い、運営に反映させるよう努めている。外部評価などで施設紹介をしている。	家族は訪問された時や、運営推進会議などで意見や要望を話す事が出来る。家族アンケート調査では、良い点や悪い点など自由に描く事が出来る。職員にお礼の言葉や要望も書いている。管理者はすぐに対応している。管理者は家族にお便りを送る際に、家族の意見や要望を書く欄を設けたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で職員が業務改善に対する意見をQC報告書に書き、それを週1回の委員会にかけ拾い上げている。委員の中で意見交換を行い、意見を調整した事柄を月1回の全体会議でスタッフ全員に浸透、徹底・反映させている。また年に一回、管理者と各職員との面談を設けて、一人ひとりの考えを確認しスキルアップにつなげている。	月1回の全体会議を行っている。職員は何かあると話してくれる。利用者と日常の関わりの中で気付いた事や、アイデアなどを聞き、運営やサービスに取り入れている。年1回、職員の面接を行い、勤務状況や、実績を把握し、向上心を持って働けるようにコミュニケーションを取り、不満や不平を言える関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的且つ能動的な就業意識を抱けるような職場環境づくりを目指している。勤務状況を把握するとともに、事業所内の行事や会議、内外の研修会の出席意欲等を確認して、給与の支給額に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いて勉強会を開いたり、また一人ひとりのレベルにあった研修を選定し、勤務調整を行って受講する機会を設け、個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同郡市内のグループホーム間において、集う機会を定期的に設け、意見交換している。そこから得た他事業所の取り組みや工夫を事業者内に取り入れている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前事前に入院先の病院や自宅を訪問し本人と面談して、本人の不安や要望等を聴くようにしている。可能であれば本人にも施設へ訪問していただき、安心の場であることを知っていただくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学時に家族と面談している。お茶を飲みながらリラックスしていただいて、和やかな雰囲気の中で不安や要望等を聴くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で必要と思われる福祉用具等の選択を介護ショップの担当者へ相談したり、遠方で暮らす家族に代わって定期受診の付添い介助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	音楽を聞きながら一緒にお茶を飲んだり話をしたり、時には人生の悩みを聴いていただくなどしている。本人の興味のあることやできることを把握し、共に実践することで良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の現状を家族へ随時報告している。必要に応じて家族と一時帰宅の計画を立てたり、本人の希望時には自宅に電話して家族の声を聞いて安心していただいたり家族からも本人へ電話していただいたり、家族の理解と協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会を歓迎し、本人との触れ合いの場を大切にしている。また、自宅方面へドライブするなどして関係の維持に努めている。毎日の散歩などで地域の人々との交流を力を入れている。また、認知症自立度の高い方でも自宅に戻りたいとの訴えに2人介助で外出したりしている。	家族、親戚、友人が訪問してくれる。今まで利用者を支えてくれた人間関係を大切にし、関係が継続出来るように職員は支援をしている。利用者の外出には職員2人で対応する時もあり、思いを叶えてあげようと支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のフィーリングの良し悪しを把握し席順に配慮したり、リビングで利用者同士が話し易くなるような雰囲気作りを心掛けている。食事やおやつ時には利用者間で誘い合い手を取り合って食堂へ移動したり、車イスの利用者の車イスを押して下さる利用者の対応を、事故のないよう見守りしたりして、その関係性を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても転院先の病院へ面会に出向いたり、家族とは地域住民としての関わり等で関係を継続するように心掛けている。また退去の事務手続きの際には、今後も必要時にはいつでも相談に応じる旨を伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝、担当者が本人と向き合い、体調の変化や日頃思っていることなどの話を聞くことにしている。これをブリーフモニタリングと言って心の中にある本人の思いや意向を探り、経過観察している。また介護ケアの際に一人ひとりの思いの把握に努めている。	職員は利用者、その人らしく生きる為に、一人ひとりの思いや希望を聞いている。言葉にしづらい利用者には、日々の行動や表情で汲み取るようにしている。家族や関係者から情報を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族との面談や、それまでの担当のケアマネジャーやケースワーカーから、生活歴や生活環境等の状況を聞いて、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の身体の状態については、朝・夕と一日2回のバイタル測定値を基準にして把握するようにしている。また毎朝担当者が個別に、それぞれに心身機能の状態に変化があるか、現状の把握に努めている。そして状態の変化を察知したら、ケースカンファレンスを開いて、他の職員に周知情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが主体となり、本人・家族や必要時には訪問看護師や福祉用具取扱事業所担当者と話し合い、それぞれの意見を取り入れて介護計画を作成している。今後は介護者も参加し共同でのサービス計画立案を行う方向にある。毎月担当ヘルパーが入居者の体調に変化がないかモニタリングを行ない、計画の見直しを行っている。	利用者・家族・看護師などから気付いた事やアイデアを聞く。ADLを確認しながら話し合い、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。家族の要望や変化が生じた時には、アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容等をひとり一人個別に記録し、業務の引き継ぎ時の申し送りを通して職員間で情報を共有している。そして変化があった際にはケースカンファレンスを実施して介護計画の見直しを行い、その後のケアの内容に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や面会にみえた家族の急な要望に対しても、できる範囲で対応するように取り組んでいる。例えば、面会にみえた家族の分の食事を本人と一緒できるように用意したり、急遽外泊の希望があった際にでも受け入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設より2～3分の所に風光明媚な太海海岸が広がっている。海洋の恵みを受け、気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	午後2時に検温し体調の変化を見つけ、変化があった場合は本人・家族の希望を確認後、その日に家族が希望する協力医療機関の専門医やかかりつけ医に相談して指示を仰ぎ、必要場合は受診へと結びつけている。当ホームではこれを37.5度ルールと言って、ちょっとした変化も氷山の一角だと思い、担当医に情報提供している。また市立病院の訪問看護を提携し、必要時担当医師との橋渡しをお願いしている。	かかりつけ医と連携を図り、利用者の様子を確認している。午前と午後、2回のバイタルチェックを行う。午後2時のバイタルチェックを行い37.5度を超えた時には、医師や看護師に相談し、重度化する前の対応に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた精神面や身体機能の変化を普段から記録に残して、訪問看護時に病院看護師と施設内看護師とのミニカンファレンスを開き、報告・相談するようにしている。そしてその後のケアの方法や受診の必要性の有無の判断を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、ホームでの普段の生活状況を情報提供したり、入院中は定期的に面会に行き、現状把握に努めるようにしている。そして主治医と退院後の受け入れ体制や退院日の検討を図っている。また近隣の各医療機関の医師や看護師、ケースワーカーとは普段から気軽に相談できる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時の対応について紙面で確認し、終末期の方針を共有する。日々の観察から本人の異変に気づき、重症化する前に家族へ報告・説明してから、連携医療機関や訪問看護師へ相談して指示を仰ぎ、受診するようにしている。また終末期を迎える前に主治医の方針を確認し、連携医療機関のバックアップをいただきながら、本人・家族の意向に添うようにしている。	家族には入居前に重度化した場合の支援のあり方を説明している。早期から利用者・家族・関係者と話し合い、方針を決めている。状態の変化で、家族は医療機関と訪問看護に相談し、指示を仰ぐ。利用者が納得した支援が受けられるように取り組んでいる。	入居者の高齢化とともに、病状の重度化が進んで来ているので、緊急時対応の研修会を実施され、いざという時の対応に備えて欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥・窒息・急変時等に備えて、看護師から定期的にレクチャーを受けている。また緊急時におけるシステムを構成して、リスクの高い入居者に対しては職員全員で注意を払うことができるような体制をとっている。そして夜勤者の他に宿直者1名を常時配置して備えている。年1回緊急時の研修会開催。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて定期的に避難訓練を実施する。その後反省会を開き課題を確認、管理者サイドのミーティング時には、その都度災害時の対策について話し合っている。また近所の方々の普段からの関係性を大切にして、いざという時や災害時における協力をお願いしている。日々火災報知機の操作についてのレクチャーを行なっている。	年2回、避難訓練を行っている。1回は消防署の参加で行われている。近所の人に声かけを行い、夜間を想定した訓練を実施している。地域と協力関係を作り、連携を図りたいと考えている。備蓄品を備え、火災報知機、消火設備(スプリンクラー)を設置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一般的な施設では行っていない事でも、スタッフからその人のQOL向上につながる事柄であれば報告書を提出してもらい、QC委員会で話し合い決定し、本人の安全を守りながらその人らしく、生活できるよう支援している。利用者に対する言葉かけも言葉の暴力にならないよう全職員に指導し対応している。	誇りやプライバシーを損ねる言葉掛けはしない。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中で責任ある取り扱いを徹底している。職員は援助が必要な時も、まずは利用者の気持ちを大切に、利用者を気づけつけないように心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から本人が、自身の思いや希望を気軽に話せるような雰囲気作りを心掛けている。物事を進める際には、まず本人へどうしたいのか問いかけてから始めるようにしているが、自己決定ができない利用者に対しては、必ず本人に説明してから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースや好みを大切にすることを心掛けている。本人の意思を確認しながら、その日の日程を職員がたて、本人に説明してから取り組むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入居者は化粧をしたり、その日に着用する洋服を好みに合わせて自分で選ぶように、男性の入居者には、自身の電気カミソリでヒゲを剃るように働きかけている。また離床して利用者同士が顔合わせする食堂等へ移動する前に、プランで髪をとかしたり着衣を整えたりと、身だしなみに配慮するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備を行ない、勤労の喜び、感謝される喜びを感じてもらい、食事が楽しくなるよう心掛けている。旬の食材を使って調理したり、各季節の行事に合わせたメニューを提供している。また定期的に食べたい物を各利用者へ聞き取り調査して、メニューに取り入れるようにしている。手作りにこだわり、添加物や加工品は控えている。	食事の献立表は一週間、朝・昼・夕食。材料の切り方など細やかなメモ書きがあり、利用者に配慮している。食事は手作りで懇だしにこだわり、美味しい食事が提供される。旬の食材に合わせ、陶器が選ばれている。利用者は調理の下処理や、テーブル拭きを行う。利用者の力を活かしながら、張り合いや自信につながる。食欲や栄養を満たすだけでなく、食を通じた取り組みの一つになる。行事に合わせたメニューを作り、提供される。利用者の食べたいモノを献立に反映する事もある。食事が楽しみの一つになっている。	管理者は食事を楽しむ事の出来る支援に力を入れ、毎日努力されているので、今後も食の大切さを維持され、継続される事を願いたいと共に、利用者家族にも、食事の献立表を教えてあげて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分量はその都度把握し記録に残し、摂取状況に合わせて、補うように支援している。食事形態も、体調や身体状況に合わせ、無理なく摂取できるように ミキサー食、粥食、刻み食等と調整して提供している。また入居前の面談時に本人・家族より好き嫌いをヒアリングしてメニューに反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が毎食後の歯磨きを、自主的にまたは一部介助、全介助によって行っている。また義歯を使用している利用者については、職員が夕食後に義歯を洗浄剤を使用して洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄をこまめに記録して、排泄パターンや尿意を把握し自立できるよう努めている。尿意を感じることが出来る利用者が分かりやすいように、トイレの入り口に大きく『トイレ』の表示をしている。また自主的にトイレに行かれない利用者は、オムツ交換にせず一定の間隔で時間誘導するようにしている。体格の良い方でもできるだけトイレ排泄を促し二人介助で行っている。	自立支援に心掛けている。利用者の排泄状況や、記録を確認しながら、出来る限りオムツの使用を避け、声掛け・誘導を行い、自立に向け支援をしている。水分補給や食物繊維の物や、乳製品を提供し、便秘の利用者には、医師と相談し注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに摂取するよう声掛けしたり、食物繊維の多い食物や乳製品を食材に選んで調理したりしている。また排泄表より把握した便秘時においては、主治医より指示を仰いでいる屯用の下剤を投与して、排便コントロールしている。また下剤により下痢に傾かないように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しつつ、週2回の入浴ができるよう努めている。そしてできるだけ本人の希望に応じて、好きな時、長湯にならないようにしながら好きな時間だけに入浴できるように心掛けている。冬場は脱衣所や浴室の温度に注意し、ヒートショック現象予防に努めている。	週2回の入浴ができる。本人の希望で入浴が出来るように心掛けている。長湯をする利用者には気を配り、安全に入浴が出来るように支援している。冬場の温度調節に心掛け、寛いだ気分で入浴が出来るように支援している。利用者が週に2回は必ず入浴して頂き、清潔保持に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者の履物は音がしない物に統一したり、音をたてないように歩き方に配慮するようにしている。また共有スペースの照明については、誰もいなくなったことを確認してから、消灯するようにしている。各居室内の照明については、一人ひとりの習慣に合わせて、消灯の程度を調節するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネが服薬管理し、一人ひとりの服用している薬の内容の把握に努め、症状に変化があった際には、主治医へ報告し指示を仰いでいる。誤薬・投薬忘れを防止する為必ず2名以上の職員で投薬のチェックをする等、事故防止に努めている。服薬を拒まれる利用者に対しては、薬剤師へ相談確認後に粉砕したり水に溶かししたりと工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、排泄物を入れる新聞紙を折ることをお願いしたり、花好きな利用者には花瓶に花を活けていただいたり日々の生活に張り合いを持っていただけるよう支援している。カラオケの機械を導入し楽しんでもらっている。また季節ごとの行事を実施したり、旬の食材を使った季節料理を食べていただいて季節を感じていただく等して、ホームの生活を楽しんでいただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度も上がり散歩に行かれない人や行きたくない人が増えてきているが、日に当たることのメリットを伝え、その日の天候や身体状況を見ながら、短時間の散歩を実施するように心掛けている。本人が希望すれば、近所にお店や車に乗っての買い物支援や外来受診後の自宅の前を通るなどの帰宅路の変更する等臨機応変に対応している。	遠くに散歩に出かける。介護度が高くなり外に出るのが大変になって来ている。少しでも日差しを浴びるように心掛け、お天気の良い日は短時間でも外に出かける。買い物や病院に出かける。気分転換やストレス発散になる。外に出る事で季節を感じ、人や場など、地域の人々と関われる事の大切さを心掛けている。	外出計画やレクリエーション計画を立てて、定期的に行う習慣をされる事に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は原則事務所管理としている。買い物は本人の意向を確認しスタッフが購入する。但し、お金を持っている方と安心する方にはこの限りではない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からかかってくる電話は、必ず本人が話せるようにつなげている。また本人が家族に電話をかけたいと言われる時も、家族の都合に配慮しながら、なるべく本人の希望に添うように対応している。手紙についても、本人家族間で確実にやりとりができるように仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごされることが多い場となっているホール・食堂等はこまめに清掃、季節感を感じさせる花や装飾を施すなどの工夫をしている。匂いについても、玄関を中心に換気をしたり、芳香剤やアロマオイルを利用したりして不快感のないように気を配っている。臭いが出やすいトイレ掃除は毎日2回以上は行き、清潔保持に努めている。	玄関には季節の花を飾っている。利用者はリビングで寛ぐ。壁には理念や利用者の手作りの作品などが飾られている。台所では食事の支度、生活感や季節感が感じられる。職員はトイレ掃除に気を配り、皆で清潔を保つように心掛けている。臭いに気を配り、芳香剤や、換気を行っている。利用者が気持ちよく過ごせる様に支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、一人掛け用の椅子と二人掛け・三人掛け用のソファを置いて自由に座っていただくよう配慮している。また大型テレビを設置して、利用者同士で好きなチャンネルに変えていただけるようにリモコンを置くなどして、過ごしやすい空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、すべて本人や家族が用意してきた物を希望に応じて置いている。入居前の事前の説明時においては、今まで自宅で使用されていた馴染みの物をできるだけ持ち込まれるよう、家族に伝えている。定期的な掃除や換気を行ない、心地よい空間を提供するようにしている。また季節ごとの衣類は家族にも協力を得て整理整頓を行なうようにしている。	居室は自分の好みの家具や飾り物を置き、自宅にいるような雰囲気作りをしている。掃除や換気を行い、気分良く過ごせる環境作りに努めている。衣類の整理は家族と行き、季節を感じながら過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体レベルを考慮した家具の配置やベッドの選定を行い、本人の能力をなるべく活かせるように配慮している。また廊下やトイレ、浴室に手すりや安全バーを設置したり、貼り紙でトイレ等の場所が認識できるように示すなどして、利用者が自立して生活できる環境作りに努めている。		